



第 119 号

編集 P T A 係
発行 長野県下伊那農業高等学校 P T A

P T A 活動について

P T A 会長 知久 隆 文



平成から令和へと一つの時代の流れの中で、一人一人が

それぞれの想いで新たな時を刻み始めていることと思います。あらためまして、今年度の会長を務めさせていただきます知久です。これからの一年間、先生方そして保護者の皆様と共に P T A 活動を盛り上げていきたいと思っておりますので、短

い時間ですが、よろしくお願ひ致します。去る五月二十五日、P T A 総会が行われ、新体制がスタートしました。今年度の教育懇談会では、講師に腰塚勇人先生をお迎えし、「命の授業〜ドリー夢メーカーと今を生きる〜」と題して、大きな事故により首から下の全身麻痺という絶望的な挫折から、奇跡の復活を遂げるまでの実体験に基づいた講演を頂きま

した。そうした苦難の経験の中で、家族や同僚そして病院のスタッフなど、多くの人たちの応援や励ましを受け「命の尊さ」「生きていくことの素晴らしさ」など、多くの感謝の気持ちに気づかされたとの講演を頂きました。昨今、交通事故死より自死率が高い現状を考えたとき、命の尊さ大切さが、とても身にしみる内容であり、生徒の皆さんも真剣に聞いている姿がとても印象的でした。さて、今後の活動としましては、夏休み明けに予定されている研修旅行があります。教育広報部の皆さんに御尽力頂きまして、今年は時代背景もあり伊勢神宮方面に計画されております。三年間の中で

保護者の皆さんと交流できる数少ない時間でもありますので、より多くの方の御参加をお待ちしております。また十一月には、稲丘祭や収穫祭があります。普段、学校の状況をご覧になることもなかなかありませんし、子供達の学校生活の雰囲気や学業の成果も垣間見ることができと思っておりますので、多くの方にご来校頂き、子供達と共に楽しんで頂きたいと思っております。最後に、下伊那農業高校は、開校百周年記念事業を来年度に控え、P T A 役員も同窓会の諸先輩方と共に計画を進めております。大変多忙の中で日々支え頂いている先生方におかれましては、本当に頭の下がる思いです。在校生の

皆さんもこの大きなイベントに関わって行くことで、この下伊那農業高校が如何に有意義で、今後必要な高校なのかを感じてほしいと思います。昨今、急激な生徒数の減少で、高校再編の話は避けて通ることではできません。これからの高校のあり方として、特色が際立つ個性ある校風づくりが大切な時代になってくると思っております。まずは事業が盛大に盛り上がりませうよう、P T A 会員の皆様にもご協力お願いします。それでは一年間ではありませんが、重ね重ねよろしくお願ひします。



共に育み 共に育つ

校長 村澤 博富美



P T A 会長の知久様をはじめ、保護者の皆様には平素より、本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、新学期のスタート間もなく、令和時代も幕を開けま

した。平成時代はネットワーク機器が個人・企業・家庭にまで急速に浸透し、産業構造や仕事の在り方、個人のコミュニケーションの取り方などが急激に変化するともに、少子高齢化の進展も重なり、社会や経済、地域、家族の形も劇的に変わりました。振り返ると平成は過渡期であり、変革を迫られた三十年でした。これからさらに、人工知能をはじめとする先端技術が急速に進歩し、将来を見通すことが難

しい時代へと突入しますが、未来へ希望を繋ぐことのできる教育となるよう努めて参ります。ところで今年度は、さらなる充実発展を目指し、次の重点目標を掲げています。

一、地域に開かれた信頼される学校づくり(教育全体)
創立百周年に向けて、歴史と伝統を礎に、科学性・社会性・指導性を高める農業教育や地域連携・交流活動等の実践教育をとおして、南信州の地域創生に寄与する産業人を育成する。

二、安全・安心を基盤とした環境づくり(生徒指導)
チーム学校として連携・協調し、生徒相互に共感的人間関係を形成するとともに、安心できる居場所づくりをとおして、いじめや暴力・非行行為のない安全・安心な明るく楽しく学べる校風を醸成する。

三、自己指導能力を高める心づくり(生徒指導)
社会性のある基本的な生活習慣を確立させ、マナー・規範意識や人権感覚を涵養するとともに、「個を顕て、個と向き合い、個を伸ばす」視点で生徒理解に努め、「自己決定の場」を与え「自己肯定感」を高め、自律心を養うよう支援する。

四、新たな学びに転換する授業づくり(学習指導)
基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、自発的・探究的な学習態度を身につけ、思考力・判断力・表現力・課題解決能力・創造力の育成に努め、ICT等を活用した授業改善や主体的・対話的で深い学びを実現する。

五、夢に挑戦する人づくり(進路指導・キャリア教育)
農業教育の特性を活かした専門的・実践的な学習活動をおととして、職業観・勤労観を養い、進路意識を高めるとともに、自分の人生を構想する力や新たな社会を創造する力を培い、生徒

一人ひとりの夢・進路を実現する。これらの目標実現のためには、保護者の皆様のご協力も不可欠です。また、生徒の活躍や健やかな成長は、保護者の皆様のご理解があつてはじめてできることとす。「共育」とは、P T A 活動をとおして、子どもとの教育に関わることで、大人も育つことです。「共に育み 共に育つ」を合言葉に、私たち大人が主体的意識を持ち、大人の責任において子どもに「何ができるか」を考え、活動できればと思います。今後とも温かいご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

会員の声

疑問を感じる あれこれ

三学年委員長 松澤 清

先日、PTA合同部会が行われた。校長からの現況報告の中で一石を投じると感じられる報告があった。アグリサービス科が育てた子牛が共進会で優秀賞を得たことなどで大喜びらしい報告であった。平均価格の七十万円を上回る価格で販売できたと、これもまた育ててきた関係者や生徒にも励みになる結果と受け止められたことと思う。が、売上金は県の収入になるとも付け加えられた。そうな

のだ、広い農場や畜舎、食品加工施設で生徒たちが実習で生産し街頭などで販売された売り上げは県の収入となっているのである。日々子供から学校の様子を聞く中で、農場関係の教職員の皆さんが農場で使われる農業や肥料や飼料、様々な資材設備の導入に当たりかたに安く仕入れるかに苦労されている様子が見えがえる。収入があってもそれを使うわけにはいかないルールが存在しているようだ。農業が南信州地域の経済基盤を強く支えている事実がある。卒業後に農業に従事する生徒は他の高校に比べ格段に多いはずである。将来農業を目指す生徒に最先端の

技術とともに農業高校でなければ得られない希望の持てる資材、設備を値段にとらわれず、教育の環境として与えてほしいと感じた。PTAとして何かできるのか役割はないのかと感じさせられる報告でもあった。

時の足音

二学年委員長 鈴木 充弘

娘が入学して早いもので、一年と三ヶ月が経ちました。中学一年生の時に、お父さんと同じ下農に行くと言われ、既に進路を決めている娘を頼もしく又嬉しく思った事を今でも忘れません。私とは言え、中学の最終試験に合わせて合格出来るような高校を先生と相談

して決めましたので、先のご事は何も考えずに入学しました。そんな私がラグビーと出会い高校生活が大きく変わりました。三年間ラグビー中心の日々を過ごし、第六十回記念大会の全国大会や滋賀国体など、多くの経験をさせていただきました。今は校内に飾ってある写真を時々見ながら懐かしんでおります。その時に私達の隣に並んでいた伏見工業高校が初優勝し、テレビドラマの「スクールウォーズ」のモデルになった大会でもありました。そんな話をした時、娘に学生時代の私の成績を聞かれ、「能ある鷹は爪を隠す」と言い訳してあります。爪を隠したまま卒業してしま

まったと。娘は苦笑いして呆れていますが、卒業生である事は間違いありません。こんな頼り無い私ですが、子供達が下農に来て良かったと思える様に、PTA役員としてお役に立てればと思っております。

子供と共に

一学年委員長 奥田 幸代

子供が入学して早四ヶ月経ちました。学校から帰ってくと授業・友達・班活動等の様子を話してくれます。とても毎日が楽しく過ぎていっていると感じることができ、親としても安心して朝送り出しています。

私自身下伊那農業高校へ入学し今はない生活科の生徒としてお世話話になりました。久しぶりに入学式母校の校舎に足を踏み入れました。懐かしい校舎教室等を見て、当時の高校生活を思い出し嬉しくなりました。子供とは学校生活の話で共感し合う事が多く、話が弾んでいます。昔も今もある農業鑑定。当時必死にノートに書き写し、勉強した事を思い出します。今思えば生活する上で必要な事を沢山学んでいたと気づかれます。下農での体験・授業は将来どんな職業を選んでも役に立ちます。子供には三年間沢山農業を学び体験し将来の進路に繋げて欲しいと願っています。緑あつてPTA役員として私自身下農でお世話になる事になりました。子供達の高校生活を見守りながら、親としても成長する良い機会を頂く事ができました。三年間子供と共に頑張り成長したいと思います。

クラブ活動報告

【南信高校総合体育大会成績】

〈県大会以上〉

〈運動班〉

団体戦(県大会以上に出場した競技のみ掲載)

◇柔道(女子) 優勝

◇剣道(女子) 準優勝

◇剣道(男子) 準優勝

◇卓球(男子) 7位

◇学校対抗(女子) 陸上 7位(33点)

◇弓道(女子) 8位ベスト8

個人戦(ダブルス含む県大会に出場した競技のみ掲載)

◇柔道(女子階級別)

宮島 彩歌 優勝

塩澤 彩花 優勝

加藤木野詠 準優勝

◇剣道(女子)

松下 凜 3位

水野 佐映 6位

◇剣道(男子)

宮澤 昂成 5位

◇卓球(女子)

伊東千尋・伊坪星奈 18位

近藤 愛美 5位

◇陸上

女子走幅跳

宮澤 香音 1位

県3位北信越

女子三段跳

宮澤 香音 2位

県4位北信越

女子円盤投

瀧浪 麻愛 4位

女子やり投げ

北沢 莉沙 4位

松尾 玲佳 6位

女子400m

松尾 玲佳 7位

女子走高跳

瀧浪 麻愛 7位

◇ソフトテニス個人戦

林 康陽・竹村圭人 16位

下澤春斗・可知佑斗 16位

〈学芸班・専門研究班 農業クラブ等〉

◇IAC

長野県国際教育研究協議会主催第39回英語弁論大会

最優秀賞 3年 後藤 愛実

◇農業クラブ

各種大会 フラワーアレンジメント競技

最優秀賞

園芸クリエイト科3年 太田 静流

優秀賞

園芸クリエイト科3年 猪又あゆみ

入賞

園芸クリエイト科3年 滝沢きよら

各種県大会 意見発表

優秀賞 発表テーマ

「シールドルが見据える未来」

3年 宮沢芳光

「I類 生産・流通・経営」

優秀賞 発表テーマ

「金色に輝け！遊休農地」

3年 吉田 香純

優秀賞 発表テーマ

「I類 開発・保全・創造」

優秀賞 発表テーマ

「大輪の花「ダリア」の魅力を広げたい」

3年 太田 静流

〈県大会I類 ヒューマンサービス〉

各種発表 フロシエクト発表

果樹班(生産・流通・経営)

県代表 最優秀賞

発表テーマ「MA包装を利用した果物の鮮度保持と貯蔵法の改善」

水温度食品認証による果樹産品活性化をめざして

食品科学班(「開発・保全・創造」)

優秀賞

発表テーマ「茶の魅力再発見」

粉末茶の消費拡大をめざして

アグリ研究班畜産部(ヒューマンサービス)

県代表 最優秀賞

発表テーマ「南信州の救世主」

信州黄金シャモプロジェクト

各種発表クラブ活動発表

発表テーマ「農業高校が繋げる南信州」

最優秀賞

◇農業クラブ

農業鑑定

◇吹奏楽

下伊那地区高校連合音楽会

職員の異動

*平成30年度末

○退職

久保田 元 (数学)

横前 元 (農業)

小島 伸一 (事務)

木下 恒夫 (事務)

上井 隆二 (事務)

○転出

羽山 功 (教頭 下高井農林高校)

田中 恵美 (国語 野沢南高校)

佐藤 元勇 (地公 飯田風越校)

三村 光永 (理科 飯田風越校)

棚田 美穂 (家庭 飯田風越校)

矢野 良 (農業 南安農業高校)

吉田 悟 (農業 飯田風越校)

新井 理宏 (農業 上伊那農業高校)

春日 隆 (事務 上伊那地域振興局)

向山 賢治 (事務 上伊那農業高校)

平成31年度

○転入

北原 邦俊 (教頭 下高井農林高校)

市瀬 裕一 (国語 赤穂高校)

滝沢 康紀 (社会 新)

長谷部みなみ (社会 講師)

勝野 幸広 (理科 伊那北高校)

広瀬 邦仁 (理科 伊那北高校)

藤原 菜緒 (家庭 新)

高木二千翔 (農業 新)

腰原 裕一 (農業 新)

有賀 大輔 (農業 新)

龍口 英男 (農業 講師)

村松 正一 (農業 講師)

小田切貴志 (農業 講師)

高根 竜二 (事務 長野県庁事務所)

岡嶋 豊 (事務 上伊那農業高校)

牧野 潔司 (事務 阿智高校)

土村 正和 (事務 赤穂高校)

柏原 博文 (事務 新)